



南砺市内の有機農業者

なべちゃん農場 渡辺 吉一さん

- ・中山間地域の限界集落で、農薬、化学肥料を全く使用しない自然栽培米を手がける。
- ・60歳までは、地元の農協に勤務。
- ・ある日、農薬をまいていたら途中で苦しくなり体調を崩したことを契機に、農協を退社後、耕作放棄地で、自然栽培を始める。
- ・近年は、**自然栽培をやりたいという方が多く集まっており、集落内の空き家に移住している。**
(本人は、南砺市空き家対策推進員も務める)
- ・**小規模農業、移住者半農半X**による、限界集落の地域活性化



5.0kg5,000円でも完売する『なべちゃんブランド』



やぎ、チェーン、機械など工夫した除草作業



←モリアオガエルの卵。自然栽培を始めたから、ホタル、アカハライモリなどの虫等が戻ってきた(子どもの頃の原風景)



移住者、半農半X、市内保育園・幼稚園、田んぼの教室の受講者などと一緒に、農作業。参加者が多く、限界集落が賑わっている



南砺市内の小中学校・保育園・幼稚園の給食米にも...

有機農業の取り組み（その他）

田んぼの教室（体験農園）

「機運・仕組み」づくり

なべちゃん農場に魅せられた女性2名が南砺市に移住し、一般社団法人を設立。なべちゃんと女性2名による米作り教室を開催

トラクター研修・耕起、代掻き、田植え、除草、電気柵設置、溝切、稲刈り、脱穀、土づくり、調理実習に至るまで、年間を通じた米作り教室プログラム

- 令和4年度教室
 - ・全12回 延べ214名
- 令和5年度教室
 - ・全9回 延べ 97名
 - ・OB・OGによる体験農園
- 令和6年度開催中
 - ※教室参加者から、有機農業に取り組む人も。
(残念ながら南砺市外)

荒起し



苗運び



稲刈り



代掻き



田植え



除草



籾殻燻炭作り



試作



代掻き



田植え



座学



有機農業の取り組み（その他）

親子で体験!! 田んぼの生き物教室

「機運・仕組み」づくり

化学肥料や農薬に頼らない田んぼにおいて、生息する生きものがどのように変移していくのかを調査しながら、小学生に有機農業の活動を知ってもらい、親子で、自然に触れ合い、環境について考える機会を醸成する

●令和4年度 募集範囲：市内の小学生と親
(定員20名程度)

参加者：小学生13名、親・家族8名 計21名

★アンケート結果★

- (1) 楽しかった・大変満足 17名 (82.4%)
- (2) まあまあ楽しかった・満足 2名 (11.8%)
- (3) あまり楽しくなかった・あまり満足ではない 1名 (5.9%)
- (4) 楽しくなかった・満足ではない 0名

確認された主な生きもの

トノサマガエル
シュレーゲルアオガエル
アマガエル
アカハライモリ
アキアカネの幼虫
ヒメゲンゴロウ
キイロヒラタガムシ
ヒルの一種
チビゲンゴロウ
コガシラミズムシ
など



●令和5年度 募集範囲：市内の小学生と親
(定員15名程度)

参加者：小学生7名、親・家族8名 計15名

確認された主な生きもの

アマガエル
アキアカネと思われる幼虫
ヒメゲンゴロウ
(成虫、幼虫ともに)
チビゲンゴロウ
キイロヒラタガムシ
ゴマフガムシの一種
コガシラミズムシ
コガタノミズアブと思われる幼虫
イネミズゾウムシ
コミズムシの一種
コルリクビボソハムシ
ウマビル
ヒラマキガイの一種
ヒメアメンボ
コモリグモの一種
など



- 南砺市農業の概況
- 有機農業取り組みの経緯
- 有機農業取り組みの概要
- **まとめ**

南砺市『オーガニックビレッジ』構想

有機農業栽培実証

学校給食

保育園のおやつ

五箇山かぶら伝承プロジェクト



田んぼの教室



料理教室



生き物調査



首都圏との交流



有機農産物のPR



首都圏マルシェ



先進地現地研修会



有機農業産地づくり研修会



地元企業とのタイアップ



オーガニックビレッジ
「地域」
づくり

担い手の育成
「人」
づくり

点から線へ、
そして面へ

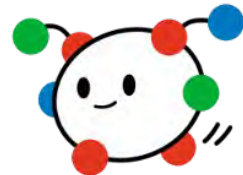
有機農業の普及啓発
「機運・仕組み」
づくり

販路の開拓・拡大

「ネットワーク」
づくり



まとめ



- 有機農業面積 計画時(R3) : 3,492 a → 現在(R5) : 4,247 a ※2割増
- 有機農業者数 計画時(R3) : 24名 → 現在(R5) : 27名 ※1割増

※有機農業者数は、富山県内で3割以上を占める

※空白地域だった五箇山地域は、計画時(R3) : 0 a → 現在(R6) : 203.0 a

就農相談中ですが、五箇山地域での有機農業新規就農希望 1名

■ 慣行農業と有機農業の共存

南砺市内では、集落営農組織が多く、まだまだ慣行農業の割合が大きいですが、担い手不足で、集落営農組織等の存続が懸念されている。いかにして、農地を守っていくかということに関して、就農希望の多い有機農業が一つの大きな手段。

■ 有機農業の独立経営への難しさが課題

有機農業は、安定的な生産及び収量・品質確保が難しく、安定的な収入を得られにくいため、独立経営していくのがまだまだ難しい。継続した伴走支援が大変重要。

■ 人づくりの大切さ

市内の先駆的な有機農業者の栽培技術等の継承、推進体制の確立を促進することによって、新たに有機農業に取り組む人の受け入れ態勢の強化。有機農業者同士の交流を促進し、様々な相談ができる環境を整備が重要。

ご清聴ありがとうございました

